

# 2009年3月期 第2四半期決算説明会



株式会社

**イナリサーチ**

2008年11月26日

**JASDAQ**  
証券コード 2176

当社の概要

決算の概況

セグメント別事業概況

通期業績見通し

今後の戦略

参考資料

# 当社の概要

# 当社の中核事業

長野県伊那市に本社を構え、医薬品開発に必要不可欠な

## 『医薬品非臨床試験』

を中心に手がける“CRO(試験受託機関)”企業

株式会社 **イナリサーチ**

非臨床試験

臨床試験  
(治験)

アウトソーシング

医薬品候補物質の  
探索・創製



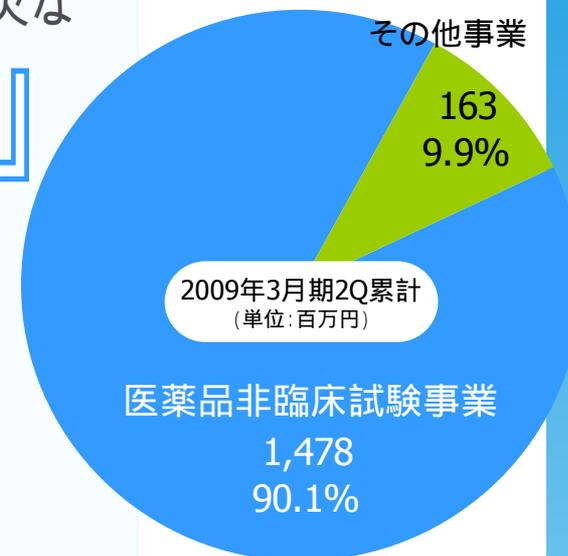
安全性・有効性  
の確認

国  
による  
承認

製造販売



製薬企業における医薬品開発プロセス



# 業界の動向と事業環境

## ■当社を取りまく外部環境の変化

抗ウイルス剤の副作用問題  
薬害肝炎訴訟問題  
健康食品に関する健康被害

薬の安全性、  
食の安全に対する  
国民や政府の意識の高まり

各医療メーカーの自社製品  
特許切れ  
ジェネリック医薬品の浸透と  
薬価値下げの進行

次期製品の開発のため、  
探索と早期安全評価 /  
非臨床評価の迅速化

安全性薬理試験の  
ガイドライン制定  
(2001年)

レギュレーションとして  
非臨床試験の評価項目が  
増加

製薬企業の大型合併の  
進行

開発工程の  
アウトソーシング化が加速

**製薬業界**

開発費の抑制  
組織のスリム化

**パートナー**

**試験受託業界**

安全性試験の複雑化  
試験評価項目の増加

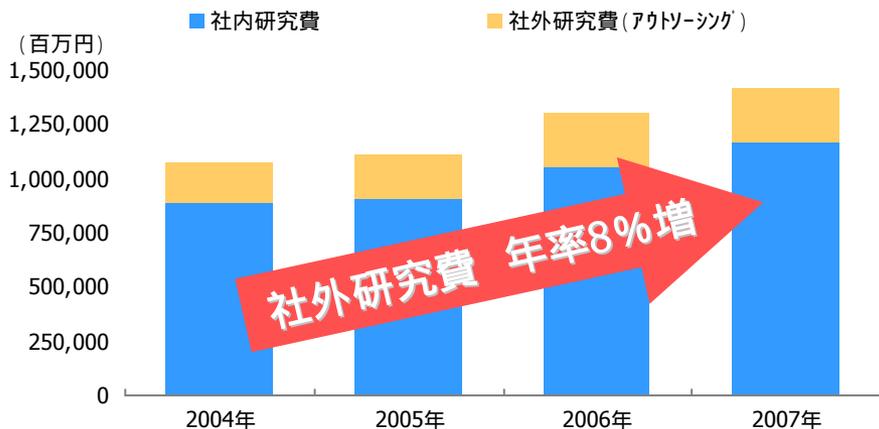
**非臨床・臨床試験の外注範囲の増加**

## ■非臨床試験受託業界の動向

- ◆ 製薬企業の社外研究開発費は2004年から2007年で年率約8%の増加
- ◆ 製薬企業の基礎研究分野への資源集中とその他工程のアウトソーシング化が進行

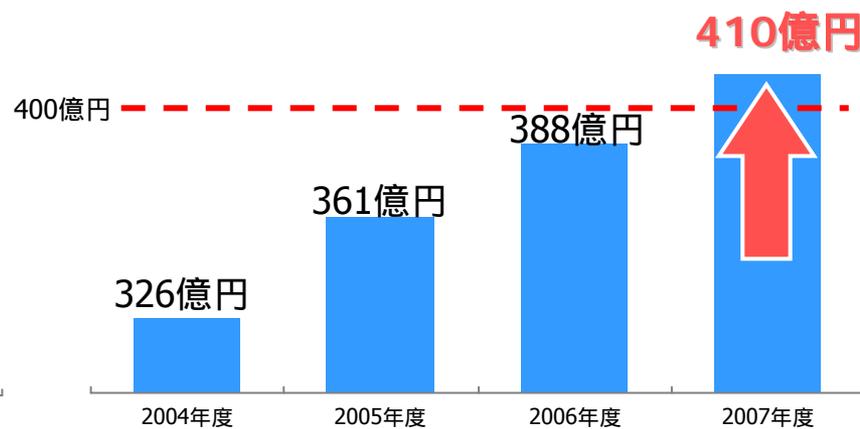
非臨床試験受託業界の市場規模も400億円規模を突破し、順調に成長

製薬企業の研究開発費の推移



総務省「科学技術研究調査報告書」より当社作成  
(数値は各年の3月31日又はその直近の決算日からさかのぼる1年間の実績)

非臨床試験受託会社上位15社の売上高合計

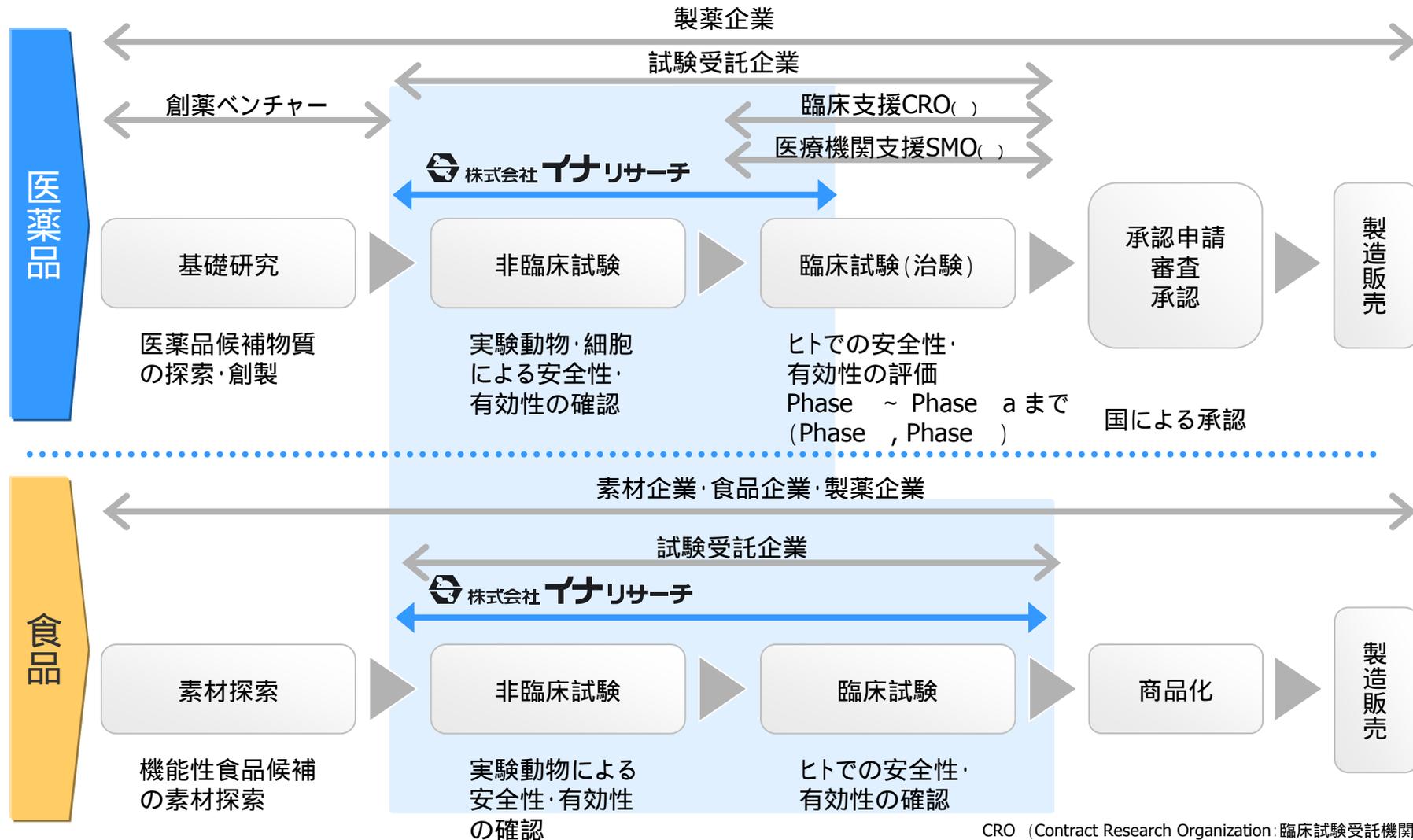


各社公表数値等を基に当社にて作成(「化学物質等安全性試験受託機関協議会」に加盟する23社のうち売上高を把握することができる会社上位15社の合計売上高)

薬価抑制や国際競争の激化による影響はあるものの、新興国等の世界市場の拡大に伴い、活発な開発投資とアウトソーシングが続く

# 当社の事業領域

## ■ 医薬品・健康食品等の開発過程と当社の関わり



## ■イナリサーチの4つの強み

### ポイント

- サルを使用した試験など独自の試験系を保有
  - 薬物依存性試験
  - 無麻酔眼圧測定試験
  - サル催不整脈モデルなど

**優位性の高い  
独自試験および  
得意試験の保有**

**経験豊富な人材  
と  
専門家ネットワーク**

### ポイント

- 多数の製薬企業出身者が在籍
- 外部の有識者からの協力を得られる顧問ネットワークを構築



### ポイント

- 子会社INARPでのクオリティコントロールによる高品質化
- グループ子会社による直接仕入による安定した調達ルートを確認

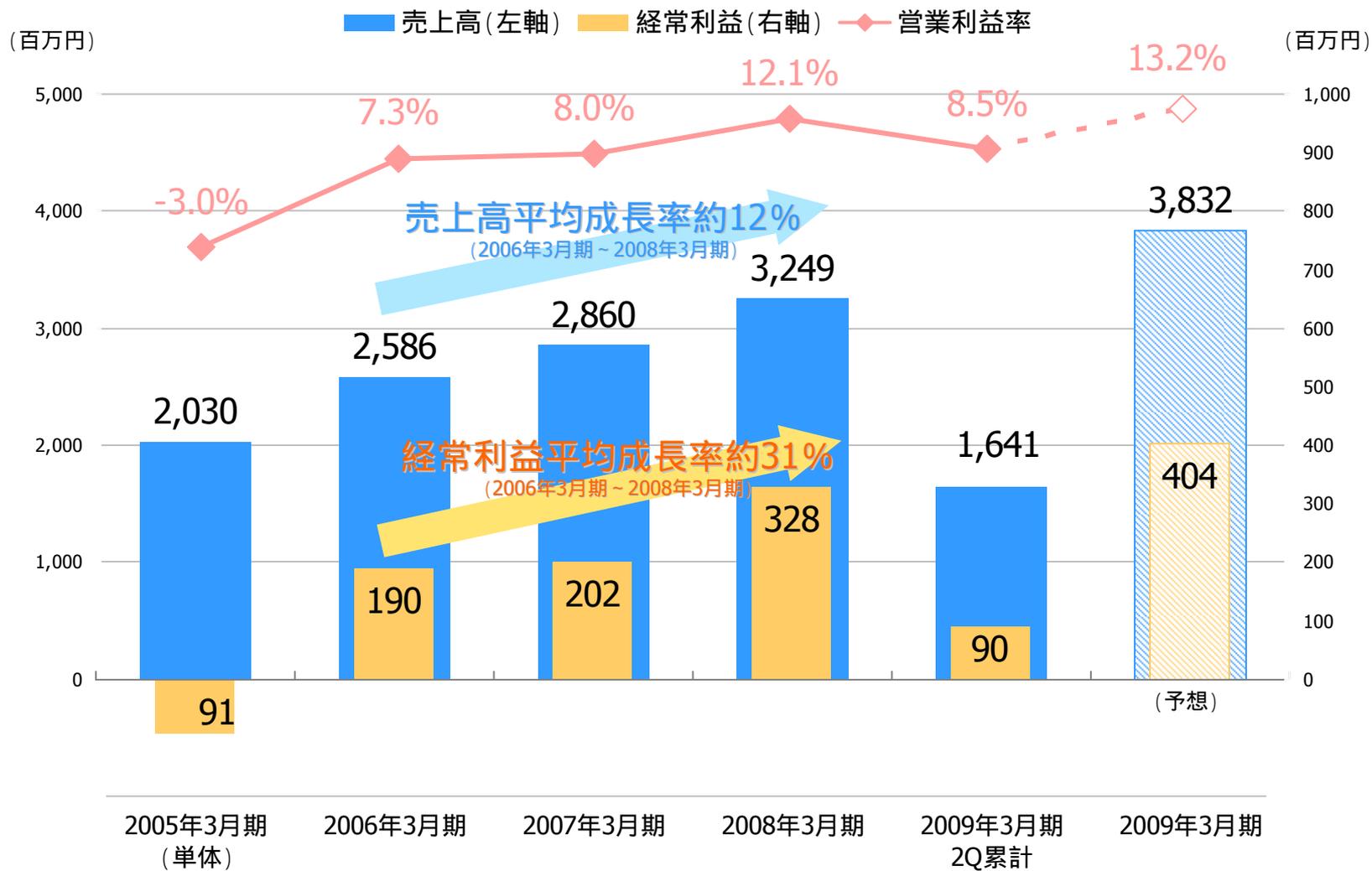
**実験動物(サル)の  
調達能力とクオリティ**

**高度な技術  
と  
試験ノウハウ**

### ポイント

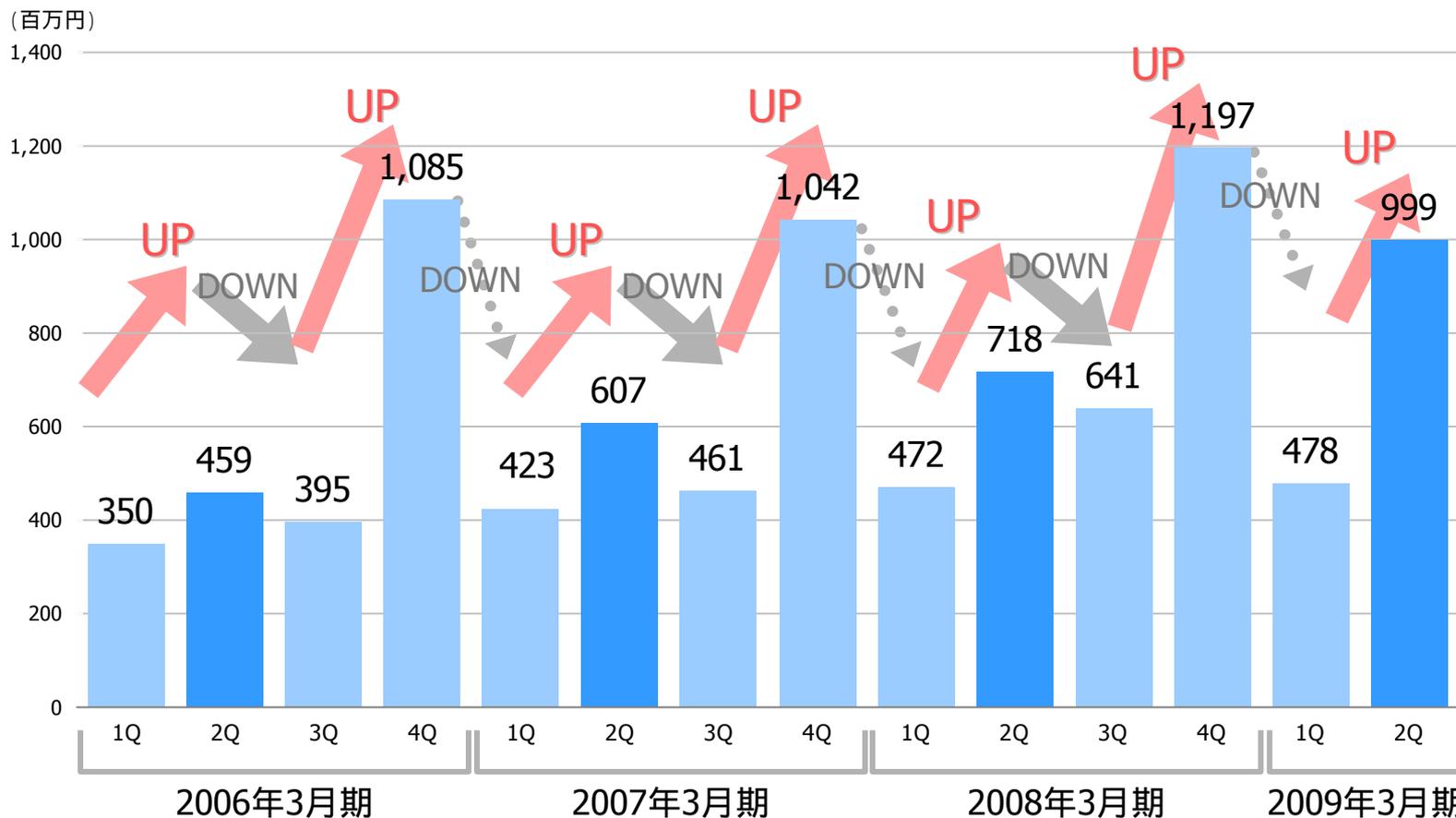
- 医薬品開発初期の高難度試験にも対応できる技術レベル
- 多種多様な顧客ニーズに対応できる試験ノウハウを保有

# 業績の推移



# 「医薬品非臨床試験事業」の季節変動について

- ◆ 顧客製薬企業の予算執行および予算計上の都合上、第4四半期に売上が集中
- ◆ 第1および第3四半期については終了する試験数が少なく、例年売上が落ち込む傾向
- ◆ 主要事業の売上が落ち込む第1四半期、第3四半期は固定費をカバーしきれず、一時的に収益が低下する



# 決算の概況

# 2009年3月期第2四半期 決算ハイライト

期首予想を上回り、売上高は1,641百万円、営業利益は139百万円に

- ◆ 顧客との連携強化による売上業務の迅速化に積極的に取り組み、売上計上の前倒しが増加
- ◆ 脱臭装置の販売・保守ならびに研究用機材販売が予定通りに推移

前年の上期と比較し、売上高は27.6%増、  
営業利益は55.2%増と順調な成長を実現

積極的な営業活動を展開し、受注および受注残も増加

- ◆ 製薬企業の活発な新薬開発とそれに伴うアウトソーシングの拡大により、予定通りの受注を確保
- ◆ 新棟建設によるキャパシティの増加で、実験受託体制の強化を実現

受注高は2,311百万円、受注残高は2,822百万円に

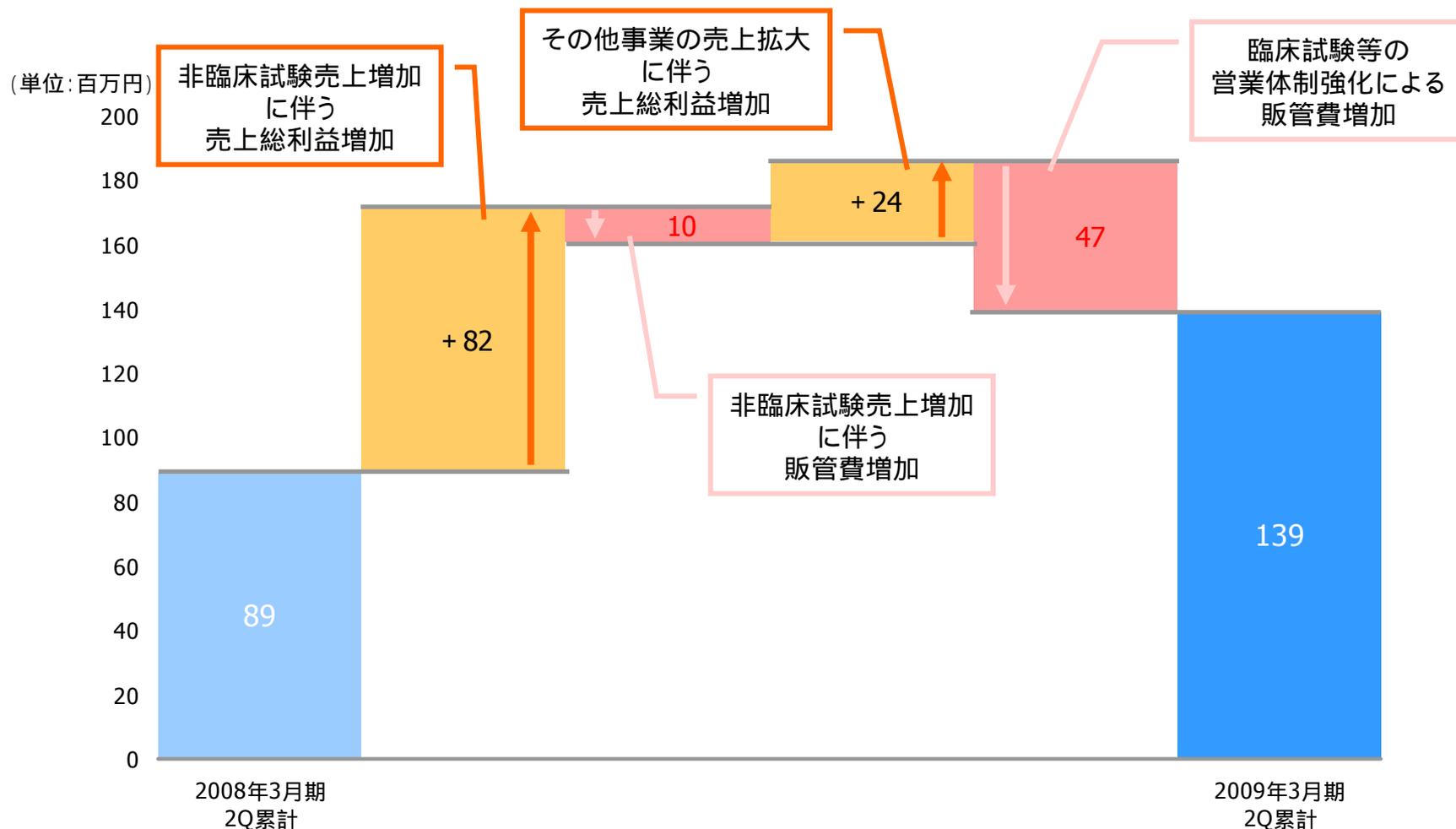
# 2009年3月期第2四半期 連結業績

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q累計	2009年3月期 2Q累計 (期首予想)	2009年3月期 2Q累計 (実績)	構成比 (%)	前年同期比 (増減額/%)	予想比 (増減額/%)	備考
<b>売上高</b>	<b>1,286</b>	<b>1,427</b>	<b>1,641</b>	100.0	127.6	115.0	
医薬品非臨床試験事業	1,190	-	1,478	90.0	124.1	-	
臨床試験事業	-	-	0	-	-	-	
その他事業	96	-	163	10.0	17.2	-	
<b>営業利益</b>	<b>89</b>	<b>79</b>	<b>139</b>	8.5	155.2	176.3	
医薬品非臨床試験事業	119	-	191	11.7	160.1	-	
臨床試験事業	-	-	40	-	-	-	
その他事業	29	-	12	-	-	-	
<b>経常利益</b>	<b>67</b>	<b>11</b>	<b>90</b>	5.5	133.7	824.6	
税金等調整前当期純利益	67	-	90	5.5	133.8	-	
<b>当期純利益</b>	<b>27</b>	<b>1</b>	<b>34</b>	2.1	123.3	3451.4	

- ◆ 医薬品非臨床試験事業において顧客との連携を強化した結果、売上高は24.1%、営業利益は60.1%の伸長
- ◆ 臨床試験事業は、海外での学会活動・営業活動や、フィリピンの臨床試験施設でのボランティア募集など、体制構築に注力
- ◆ その他事業では、脱臭装置販売等の環境事業が順調に推移するも、食品試験が低迷

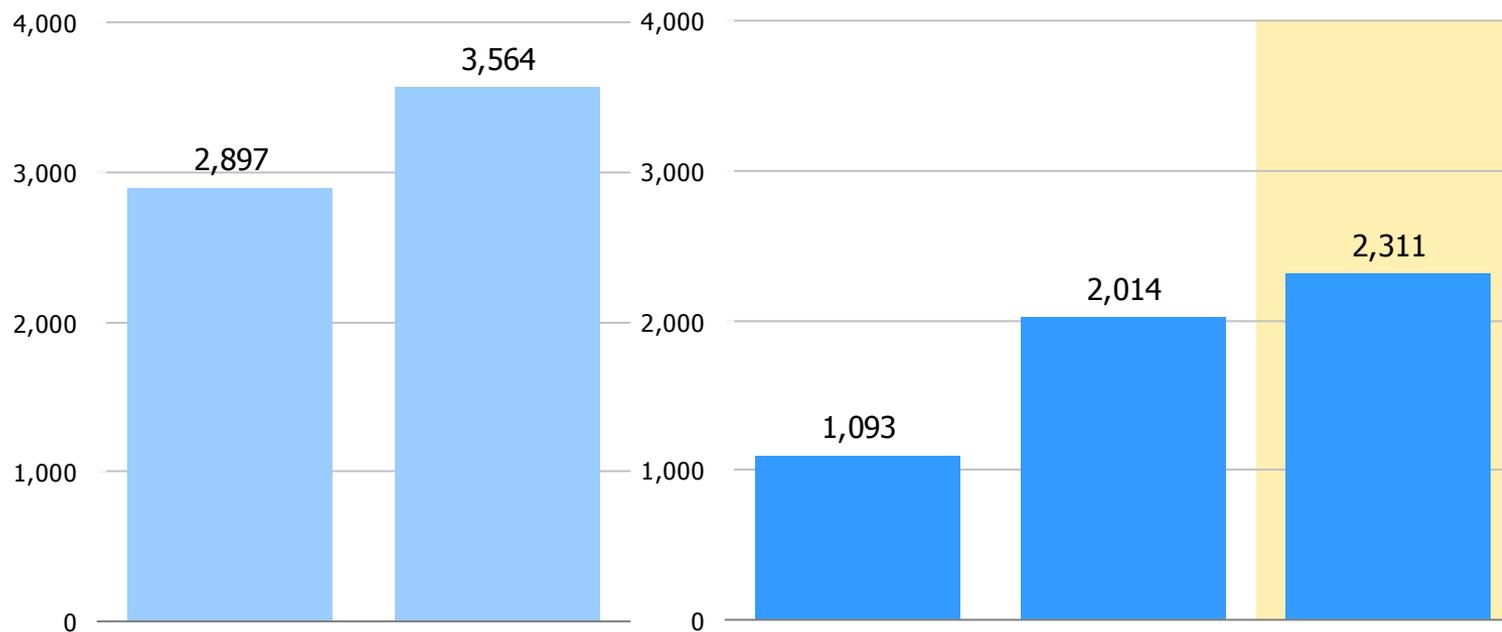
# 2009年3月期第2四半期 営業利益増減分析



- ◆ 非臨床試験およびその他事業における売上総利益増加による影響は106百万円
- ◆ 非臨床および臨床試験の販売管理費増加の影響が 57百万円

# 2009年3月期第2四半期 受注高推移

(単位:百万円)



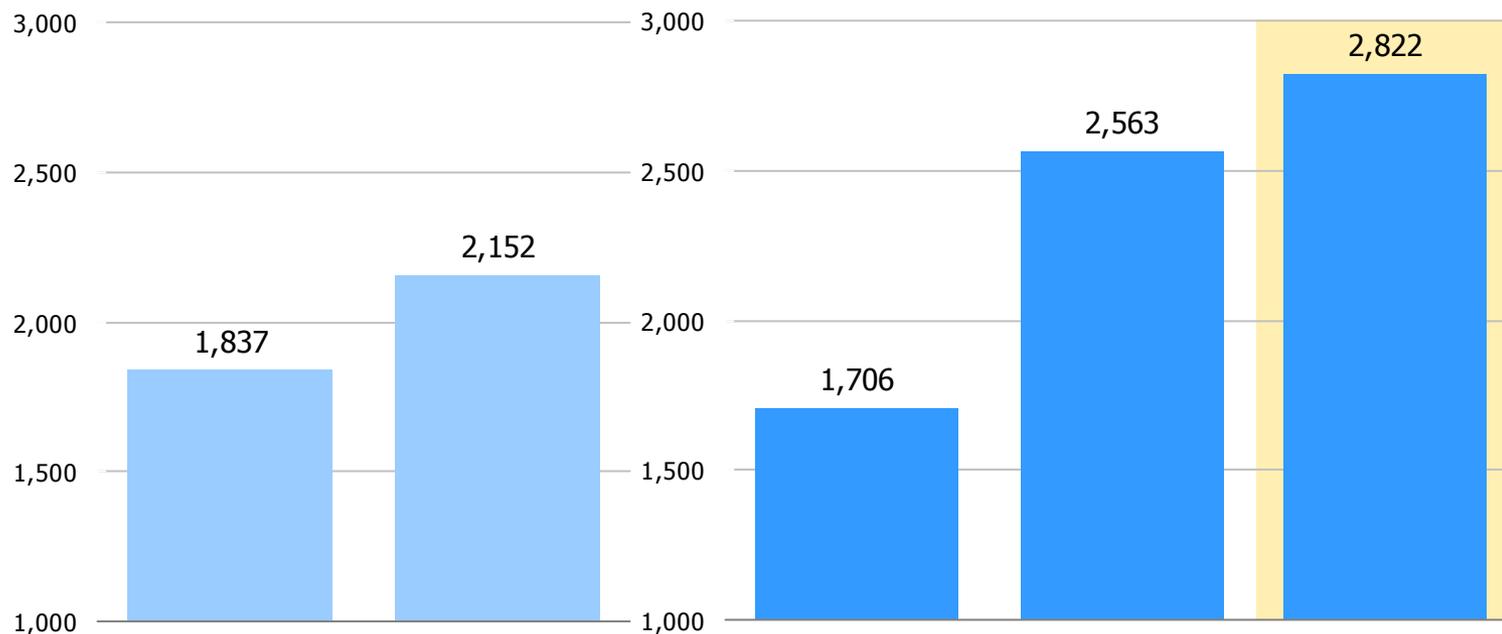
	2007/3期	2008/3期
受注高	2,897	3,564
非臨床試験事業	2,632	3,303
臨床試験事業	-	-
その他事業	264	261

	2007/3期 2Q	2008/3期 2Q	2009/3期 2Q
受注高	1,093	2,014	2,311
非臨床試験事業	868	1,872	2,013
臨床試験事業	-	-	-
その他事業	224	142	298

- ◆ 製薬企業のアウトソーシング化を受け、大手製薬会社からの受注が好調に推移
- ◆ その他事業では、環境事業の受注が堅調に増加

# 2009年3月期第2四半期 受注残高推移

(単位:百万円)



	2007/3期	2008/3期
受注残高	1,837	2,152
非臨床試験事業	1,812	2,086
臨床試験事業	-	-
その他事業	24	66

	2007/3期 2Q	2008/3期 2Q	2009/3期 2Q
受注残高	1,706	2,563	2,822
非臨床試験事業	1,580	2,494	2,621
臨床試験事業	-	-	-
その他事業	126	69	201

- ◆ 第2四半期に売上業務の迅速化による売上計上前倒しがあったものの、受注体制の強化・新棟建設によるキャパ増加等を受け、受注残高は過去最高水準へ

# 2009年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q	2008年3月期 4Q	2009年3月期 2Q	構成比 (%)	前期末比 (%)	備考
<資産の部>						
<b>流動資産</b>	<b>1,738</b>	<b>2,000</b>	<b>2,284</b>	<b>46.2</b>	<b>114.2</b>	
現金及び預金	178	286	139	2.8	48.6	
受取手形及び売掛金	255	378	519	10.5	137.1	
仕掛品	890	971	1,049	21.2	108.0	
<b>固定資産</b>	<b>1,967</b>	<b>2,107</b>	<b>2,658</b>	<b>53.8</b>	<b>126.2</b>	
有形固定資産	1,922	2,063	2,615	52.9	126.8	
建物及び構築物	1,289	1,229	1,850	37.4	150.5	
土地	462	457	451	9.1	98.7	
その他	169	122	313	6.3	255.1	
無形固定資産	11	11	9	0.2	81.7	
投資その他の資産	34	32	33	0.7	103.5	
<b>資産合計</b>	<b>3,706</b>	<b>4,108</b>	<b>4,943</b>	<b>100.0</b>	<b>120.3</b>	

# 2009年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q	2008年3月期 4Q	2009年3月期 2Q	構成比 (%)	前期末比 (%)	備考
< 負債の部 >						
<b>流動負債</b>	<b>2,218</b>	<b>2,556</b>	<b>2,492</b>	<b>100.0</b>	<b>97.5</b>	
支払手形及び買掛金	280	255	264	10.6	103.5	
短期借入金	590	500	300	12.0	60.0	
1年以内返済予定長期借入金	280	265	229	9.2	86.4	
前受金	746	810	1,011	40.6	124.8	
<b>固定負債</b>	<b>747</b>	<b>700</b>	<b>657</b>	<b>26.4</b>	<b>93.8</b>	
長期借入金	690	651	536	21.5	82.4	
<b>負債合計</b>	<b>2,965</b>	<b>3,257</b>	<b>3,149</b>	<b>126.4</b>	<b>96.7</b>	
< 純資産の部 >						
株主資本	620	767	1,743	70.0	227.2	
少数株主持分	100	90	84	3.4	92.8	
<b>純資産合計</b>	<b>740</b>	<b>851</b>	<b>1,793</b>	<b>72.0</b>	<b>210.7</b>	
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,706</b>	<b>4,108</b>	<b>4,943</b>	<b>198.3</b>	<b>120.3</b>	

# 2009年3月期第2四半期 連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

	2008年3月期 2Q累計	2009年3月期 2Q累計	備考
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>132</b>	<b>122</b>	
税金等調整前中間純利益	67	90	
賞与引当金の増減額	11	19	
売上債権の増減額	137	141	
たな卸資産の増減額	232	104	
仕入債務の増減額	0	9	
前受金の増減額	148	205	
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>106</b>	<b>442</b>	
有形固定資産の取得による支出	98	441	
<b>財務活動によるキャッシュフロー</b>	<b>98</b>	<b>583</b>	
短期借入金の純増減額	6	200	
長期借入金の返済による支出	155	151	
株式の発行による収入	-	963	
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	7	
現金及び現金同等物の増減額	72	10	
現金及び現金同等物の期首残高	231	255	
現金及び現金同等物の期末残高	159	266	

# セグメント別事業概況

## 2009年3月期第2四半期の取り組み～試験受託体制の強化～

### ◆ 新研究棟(第7棟)の操業を開始し、サル試験の強化・拡充を実現



2008年9月8日稼働



サルテレメトリー試験室



サル室



ウサギ室

#### 施設概要

- 立地: 長野県伊那市西箕輪
- 建物構造: 鉄骨造平屋建
- 施設用途: 非臨床試験実験室等

#### 受託能力

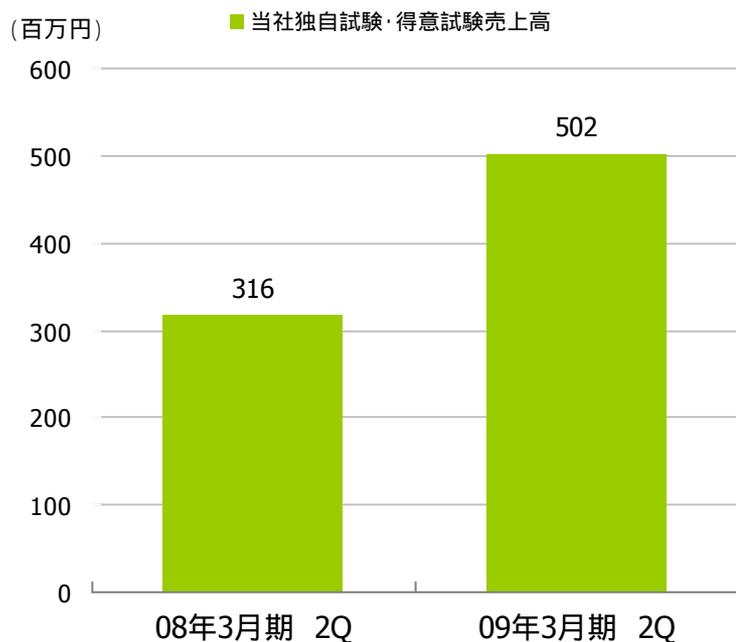
1. サル テレメトリー試験および慢性房室ブロックのサルモデルを用いたQT延長評価試験が**12試験同時**に実施可能
2. サルの収容頭数が**45%**増加、ウサギの収容頭数が**33%**増加

**サルを用いた安全性薬理試験、薬物依存性試験、ならびにウサギを用いた毒性試験、生殖試験の受託体制強化を実現**

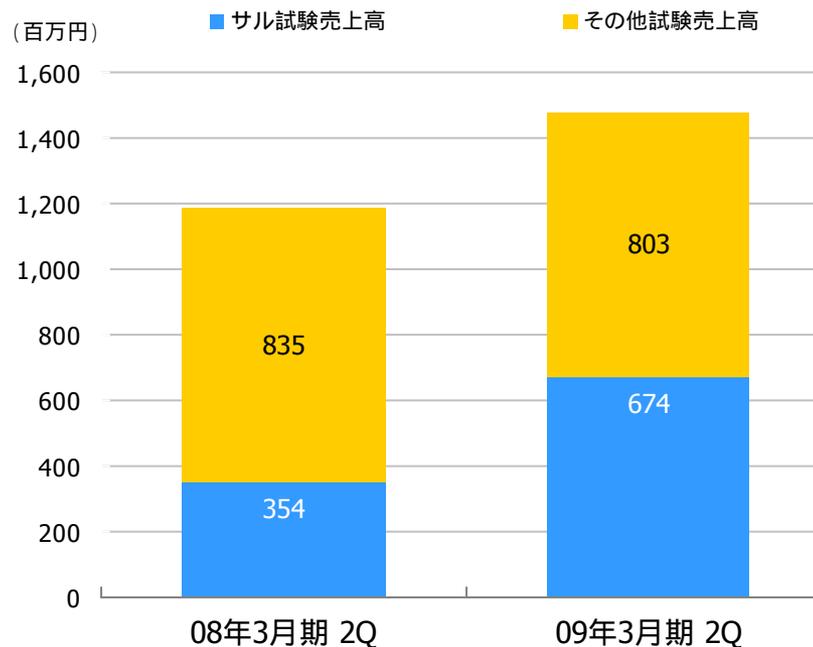
2009年3月期第2四半期の取り組み～サル試験・専門試験の受託強化～

- ◆ 無麻酔眼圧測定試験、薬物依存性試験などのサルを使用した当社独自試験および小動物を使用した得意試験の受託を継続的に強化

当社独自試験・得意試験売上高の前年同期比較



サル試験とその他試験の売上高の前年同期比較



## 2009年3月期第2四半期の取り組み～サル試験・専門試験の受託強化～

### ◆ サル催不整脈モデルが科学技術振興機構の「独創モデル化」に正式に採択

独立行政法人 科学技術振興機構 2008年度 独創的シーズ展開事業 独創モデル化 採択課題一覧

	企業名	課題名
1	株式会社 オメガトロン	表面・界面の磁気構造分析を可能にするスピン偏極イオン散乱分光装置の開発
2	西日本電線 株式会社	手術中蛍光眼底造影装置の実現に向けた眼内照明用石英ファイバロープ製造技術の確立
3	株式会社 アールテック	MRI時系列データを用いた心筋運動の可視化解析システムの開発
4	株式会社 ウエアビジョン	広視域網膜投影型ウェアラブル電子眼鏡の実用化
5	アルバック理工 株式会社	製品化のためのツインバス型共振ざり装置の開発
6	株式会社 東京インスツルメンツ	新方式連続(CW)テラヘルツ波発振器
7	株式会社 宇都宮電機製作所	エッチド・ヒューズの研究開発
8	有限会社 スペース・バイオ・ラボラトリーズ	浮遊環境を利用した新規の幹細胞培養液の改良
9	株式会社 イナリサーチ	致死性不整脈の発生予測モデルの開発
10	株式会社 バスカル	0.1Å以下の空間分解能をもつ絶縁体表面原子構造解析装置

### 『致死性不整脈の発生予測モデルの開発』

非循環器用薬が心電図QT間隔の延長を経て重症不整脈や突然死を誘発するという副作用が問題に

これらを確実に予測する安全性評価法は未確立

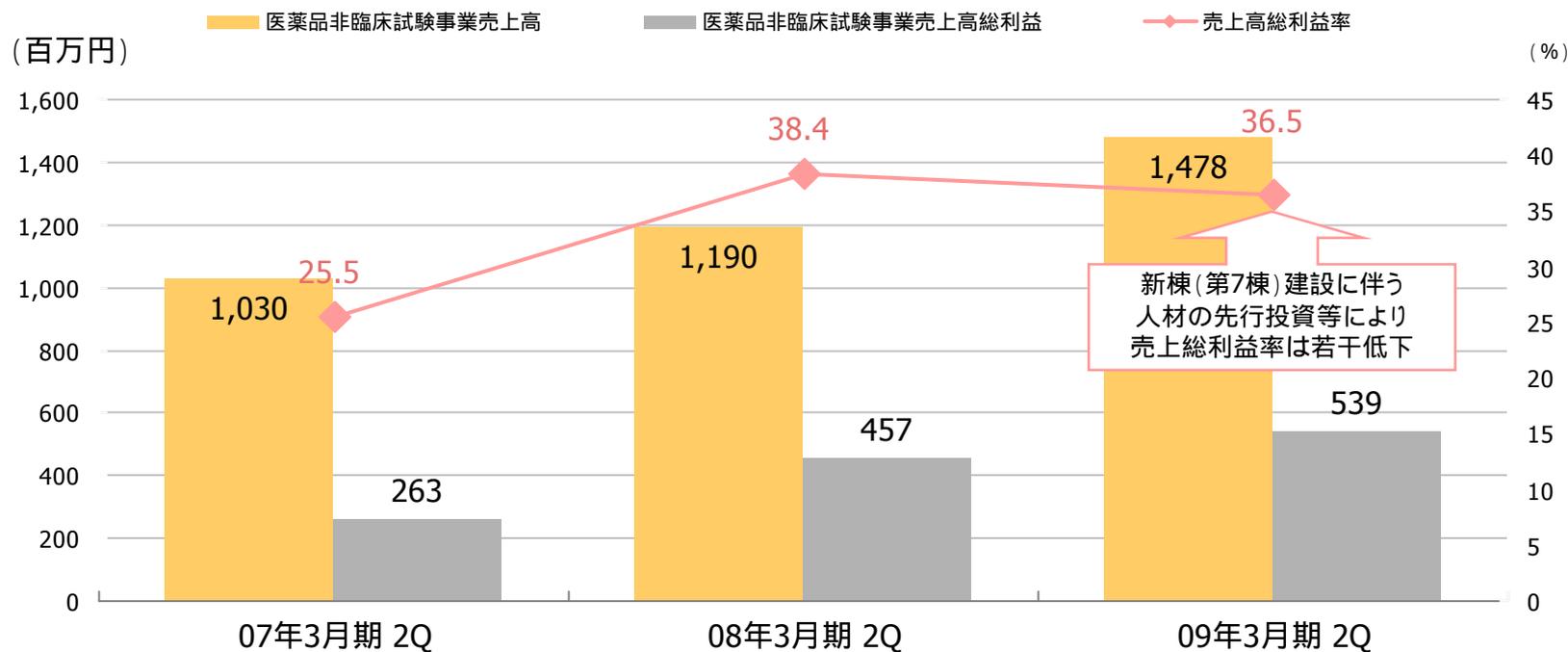
自社で特許保有する催不整脈モデル動物(特許番号第4088334号)のノウハウを最大限に活用

**慢性房室ブロックによる徐脈サルを用いて、医薬品による重症不整脈や突然死(薬物性QT延長症候群)を確実に予測できるモデルの開発を推進**

2009年3月期第2四半期の取り組み～非臨床試験の利益率維持向上～

## ◆ サル試験およびその他小動物試験も含めた各試験種ごとの利益率維持向上

非臨床試験売上高および売上高総利益の推移



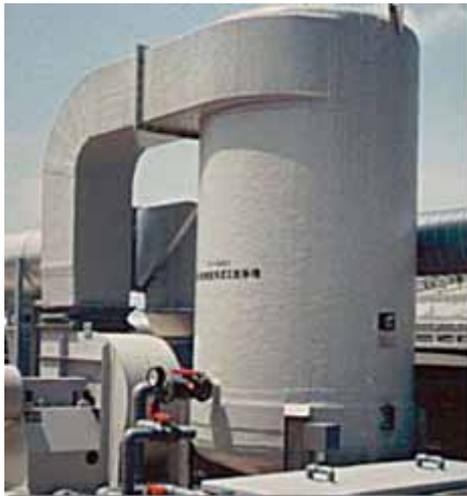
# 臨床試験事業およびその他事業

## 2009年3月期第2四半期の取り組み～臨床試験営業体制の強化～

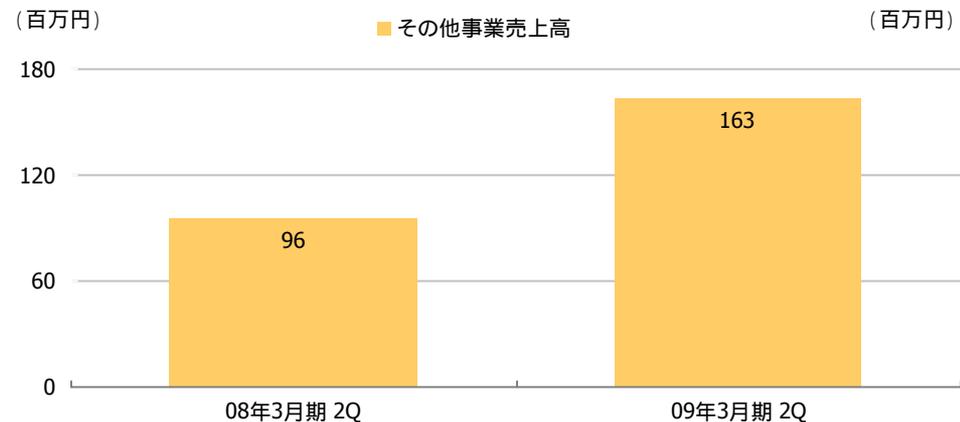
- ◆ フィリピンにおけるThorough QT試験体制の整備
- ◆ 第9回世界臨床薬理学会(The IX th World Conference on Clinical Pharmacology and Therapeutics)においてThorough QT試験の結果を公表
- ◆ フィリピンの臨床試験施設(Clinical Pharmacology Center)での多人種ボランティアにおける試験系開発

## 2009年3月期第2四半期の取り組み～その他事業の拡販～

- ◆ サイクロスプレー式スクラバーをはじめとした各種脱臭装置の販売が好調
- ◆ 売上高は前年同期比69.8%増の163百万円に



その他事業売上高の推移



# 通期の業績見通し

# 2009年3月期 連結業績見通し

(単位:百万円)

	2008年3月期	2009年3月期 (見通し)	構成比 (%)	前年同期比 (増減額/%)	備考
売上高	3,249	3,832	100	117.9	
営業利益	393	506	13.2	128.5	
経常利益	328	404	10.5	123.0	
当期純利益	175	233	6.1	132.8	

- ◆ 2009年3月期通期の業績見通しにつきましては、年間を通じての受注額に大きな変動がないことから、平成20年6月25日に公表致しました平成20年3月期決算短信記載の業績予想より変更は行っておりません。

## ■利益配分に関する基本方針

# 継続的かつ安定的な配当の実行

## ■配当実績及び当期配当金の予想

### 配当金額の推移

1株当たり配当金

2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期(予想)
500円	1,100円	1,600円

# 今後の戦略

## サルを使用した特質化試験の強化

### 高品質なサル供給体制と技術者育成強化

- PQCCの増強によるINARPからサル供給数増強
- サル熟練技術者の継続的な育成
- INARPと同等レベルのサル育成・供給体制のフィリピン以外での確立

### サルを用いた試験の強化・拡販

- AV-ブロック等の安全性薬理試験の海外向け営業強化
- 新棟(第7棟)の稼働率向上



サルを用いた安全性薬理試験、薬物依存性試験、緑内障関連試験など特質化試験の推進

## 研究開発の促進

### 非臨床試験の研究と新試験系確立

- マイクロドーズ試験のための非臨床コンバイン試験
- 初期安全性薬理スクリーニング試験系の確立
- 光毒性試験と免疫毒性試験への対応

## 臨床試験ビジネスの確立

### Thorough QT/QTc 試験のビジネスモデル確立

- ICH E14 ガイドラインに準拠したフルサイズ Thorough QT/QTc 試験への展開
- 探索的 QT/QTc 試験の拡販
- ICH E14 国内ガイドライン化へ向けての対応
- フィリピン国内の臨床ボランティア(日本人含む)の更なる充実

## 営業力の強化とグローバル化

### コンサルテーション営業の強化

- 30年間の技術及び試験ノウハウを生かし、非臨床及び臨床ステージにおける安全性試験全般のコンサルテーションや提案型の営業活動を展開

### 海外営業の強化

アジア市場



欧州市場



米国市場

- 韓国有数の非臨床受託会社との提携による受託強化

- 欧州における非臨床試験営業体制を強化

- 米国に営業拠点を設け、安全性薬理試験の受託を推進

# 当社の中長期戦略

## ■当社が目指すサービス領域『Proof of concept (プルーフ オブ コンセプト)』

- 医薬品開発支援サービスの領域を拡大し、探索段階からPhase aまで手掛ける

**INN**

非臨床領域

臨床領域

探索毒性  
試験

安全性薬理  
試験

毒性試験

Thorough  
QT/QTc試験

Phase

Phase a

Phase ~

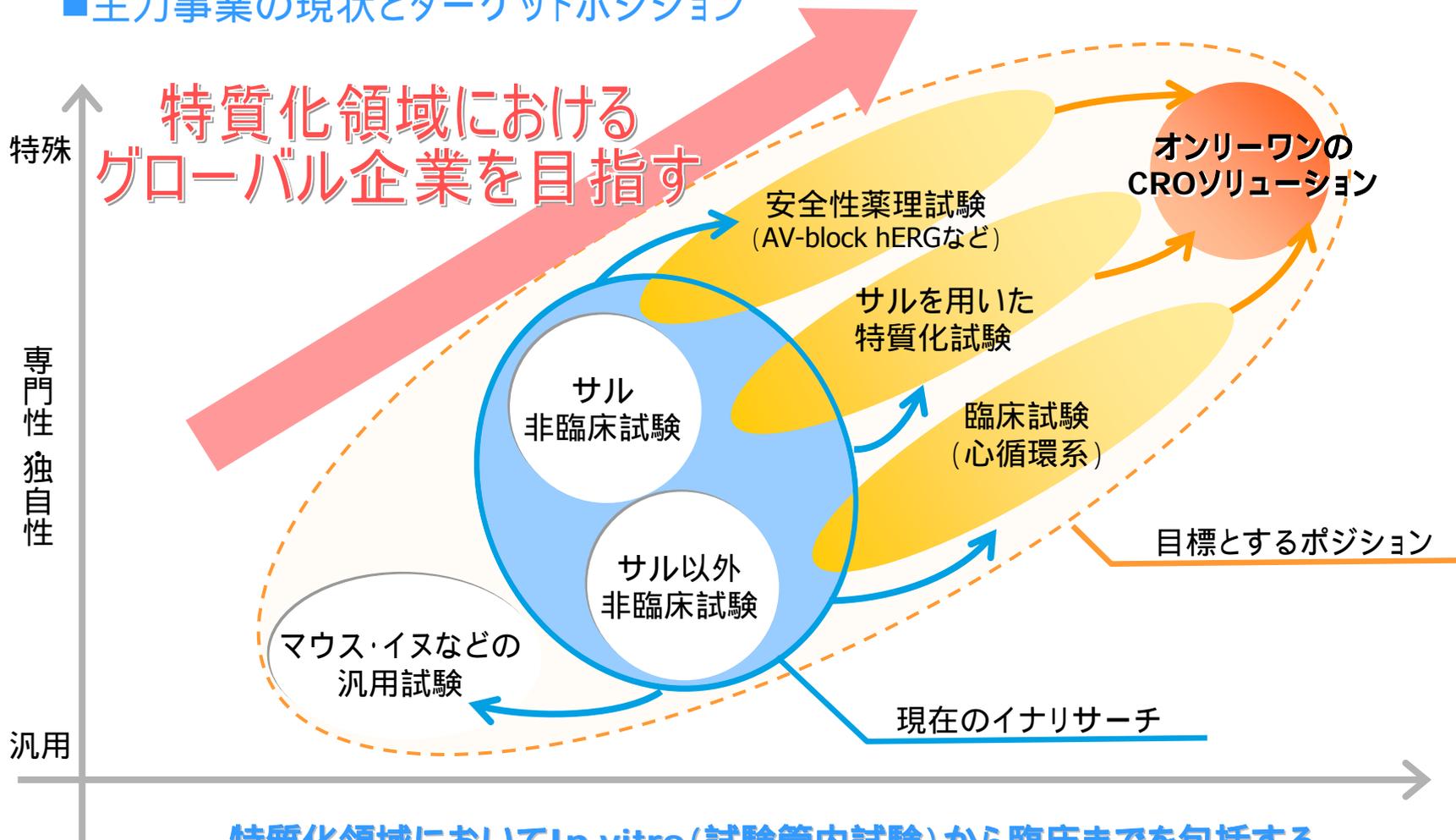
**サービス領域の拡大**

探索における非臨床試験から  
アーリーフェーズ まで一貫した  
サービスを提供する

Thorough QT/QTc試験  
ヒトによる循環器への副作用を  
予測評価するための試験

# 目標とするポジション

## ■主力事業の現状とターゲットポジション



特質化領域においてIn vitro (試験管内試験) から臨床までを包括する  
総合評価力を備えたグローバルな試験機関を目指す

医薬品開発のベストパートナーとして  
Qualityにこだわり、そして進化する

それがイナリサーチのビジョンです

# 參考資料

# 会社概要

## 会社概要

社名	株式会社イナリサーチ
設立	1974年7月13日
代表者名	代表取締役社長 中川博司
資本金	683百万円
従業員数	314名 (連結:2008年9月末現在)
本社・研究所	長野県伊那市西箕輪2148番地188
関連会社	Ina Research Philippines, Inc. Inaphil, Incorporated
事業内容	・医薬品等の安全性試験、薬効薬理試験等の非臨床試験の受託 ・食品のヒト試験、非臨床試験の受託 ・環境設備/試験機器の開発、販売

本社・研究所(長野県伊那市)



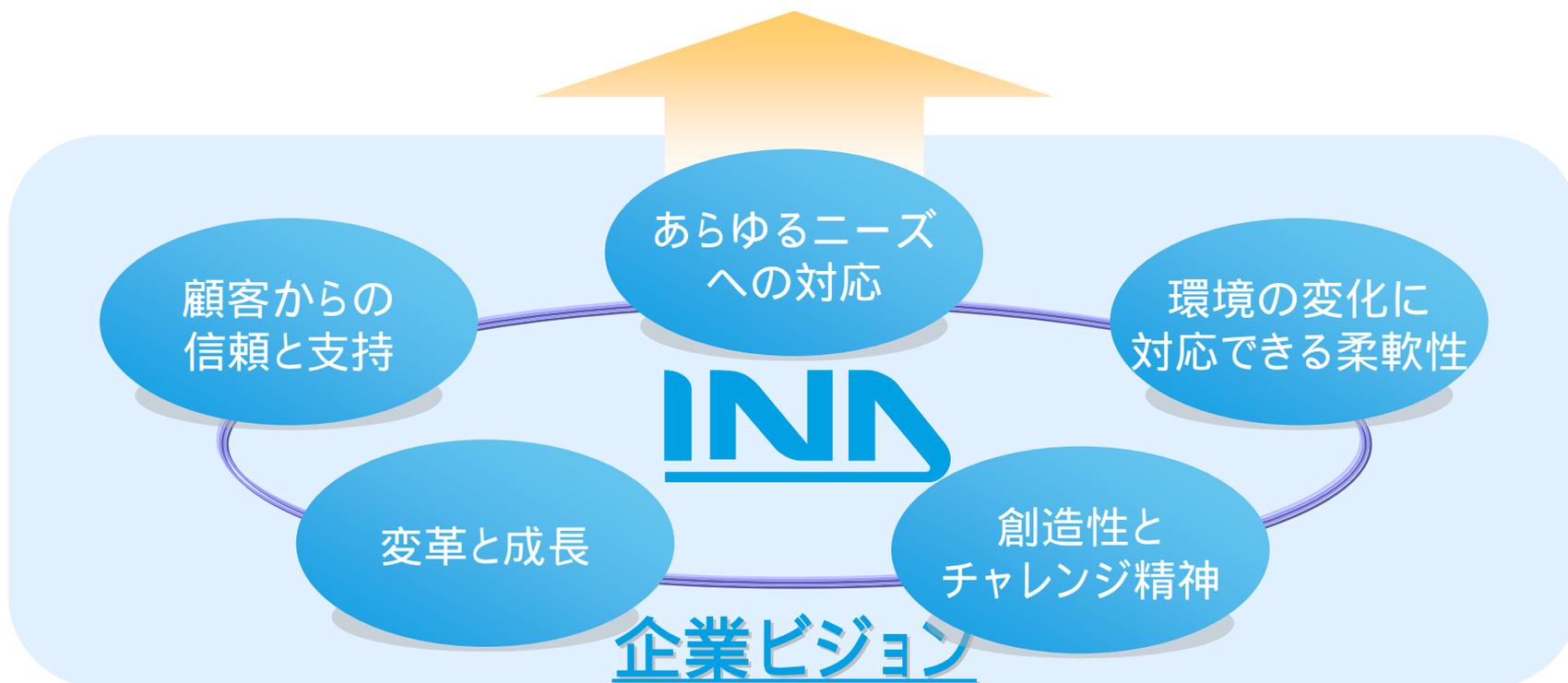
## 株式情報

証券コード	2176
上場市場	JASDAQ
株式の売買単位	1株

1974年 7月	長野県伊那市にて創業(商号:有限会社信州実験動物センター)
1983年 4月	GLP( )施行、同時にGLP対応試験の受託開始
1986年 9月	医薬品GLP適合性評価「A」取得
1988年 3月	第2研究所を開設
1989年 7月	株式会社イナリサーチに商号を変更
1992年 9月	東京出張所開設(1997年1月 東京支所へ改称)
1992年11月	サル試験棟(第2棟)を新設し、サル試験受託開始
1994年 4月	フィリピン現地法人Ina Research Philippines, Inc.(INARP)を設立
1995年 1月	大阪出張所開設(1995年6月 大阪支所へ改称)
1998年 5月	INARPにサル育成施設『PQCC』(Primate Quality Control Center)を開設
2001年 6月	サル検疫棟(第4棟)を新設
2003年 4月	試験研究棟(第5棟)を増設
2005年 2月	日本初のAAALAC International(国際実験動物管理公認協会)完全認証取得
2005年12月	試験研究棟(第6棟)を増設
2008年 6月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
2008年 7月	試験研究棟(第7棟)を増設

## 経営理念

人類の永遠の平和存続を願い、  
医薬品、農薬、食品等の  
開発支援サービスを通じて社会に貢献する



# 非臨床試験とは

## ■医薬品等の開発プロセス

基礎研究  
2～3年

非臨床試験  
3～5年

臨床試験  
(治験)  
3～7年

Phase

Phase

Phase

承認申請・審査・承認  
薬価基準収載  
1～2年

販売

## 非臨床試験とは・・・

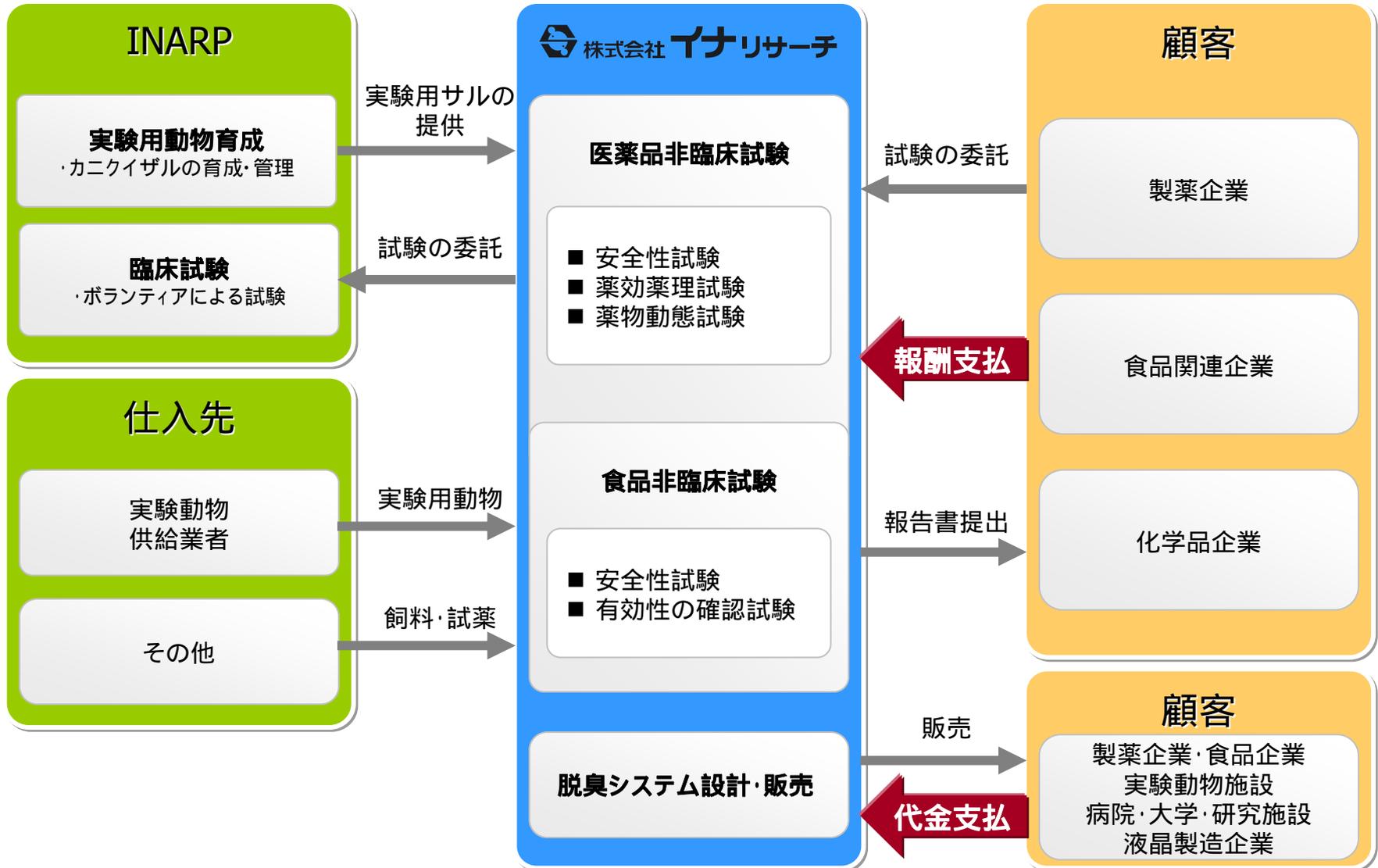
医薬品の研究開発において、

有効性・安全性を評価するために  
実験動物・細胞を用いて  
薬効薬理作用、生体内での動態、  
有害な作用などを調査する

試験のことを指す。

- ◆ 医薬品の有効性と安全性を評価・証明するための科学的データを提供するもの
- ◆ 臨床試験へと進むために必要であるとともに臨床における有効性と安全性を裏づけるために重要なプロセス
- ◆ 非臨床試験の結果、有効性が期待でき、安全性にも問題がないと考えられた場合にヒトで行うのが臨床試験

# ビジネスモデル



## ■事業の概要と売上高構成比

### 医薬品非臨床試験事業

- ◆ 医薬品開発企業の委託を受けて、個別に試験を実施
- ◆ 基礎研究段階で探索・創製された医薬候補物質を実験動物・細胞・細菌を用いて、その安全性・有効性を確認

### 臨床試験事業

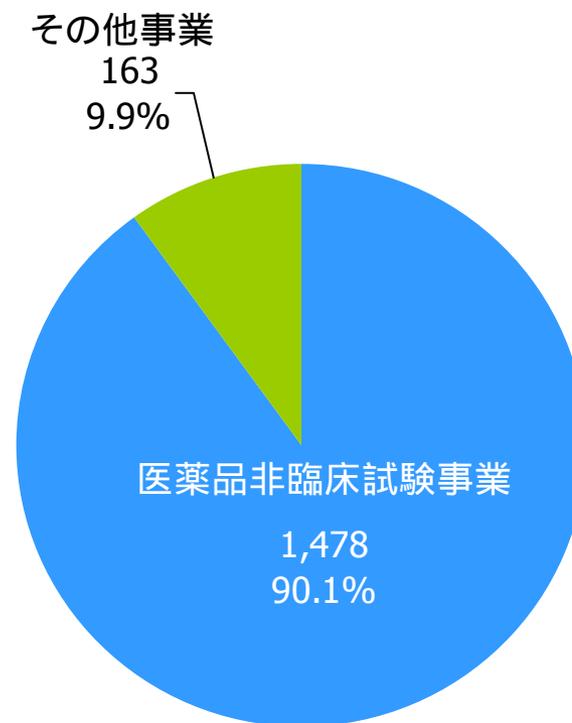
- ◆ 医薬品開発のためのヒトによる臨床試験を実施

### その他事業

- ◆ 『環境事業』  
空気環境対策のノウハウを生かした脱臭システムの設計・販売
- ◆ 『食品試験事業』  
健康食品やその素材を対象とした、非臨床試験および臨床試験を実施

### 事業別売上高

(単位:百万円)



2009年3月期第2四半期累計

# 医薬品非臨床試験事業

## ■取扱い試験

### 安全性試験

#### 概要

被験物質の毒性や発がん性、刺激性、アレルギー性、依存性や生命維持機能に対する有害作用などを調査する試験。

### 薬効薬理試験

#### 概要

被験物質の薬としての有効性を評価する試験。ターゲットとする疾病の病態モデル動物を使用して調査。

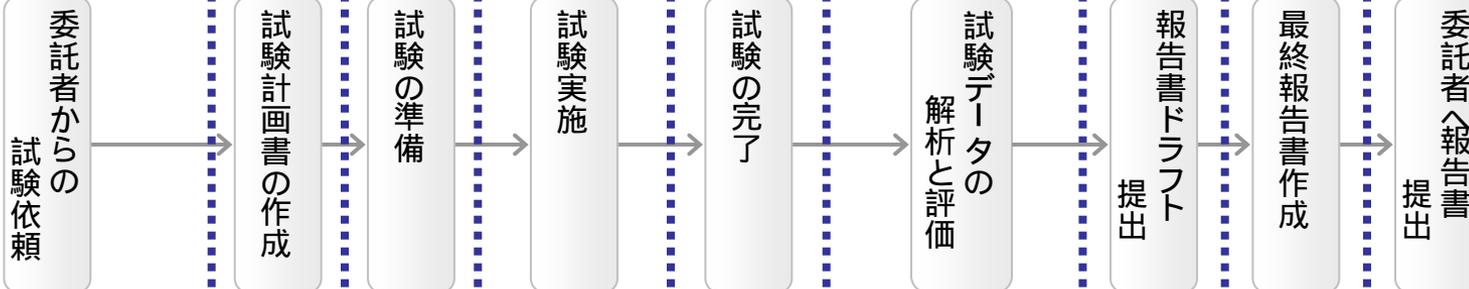
### 薬物動態試験

#### 概要

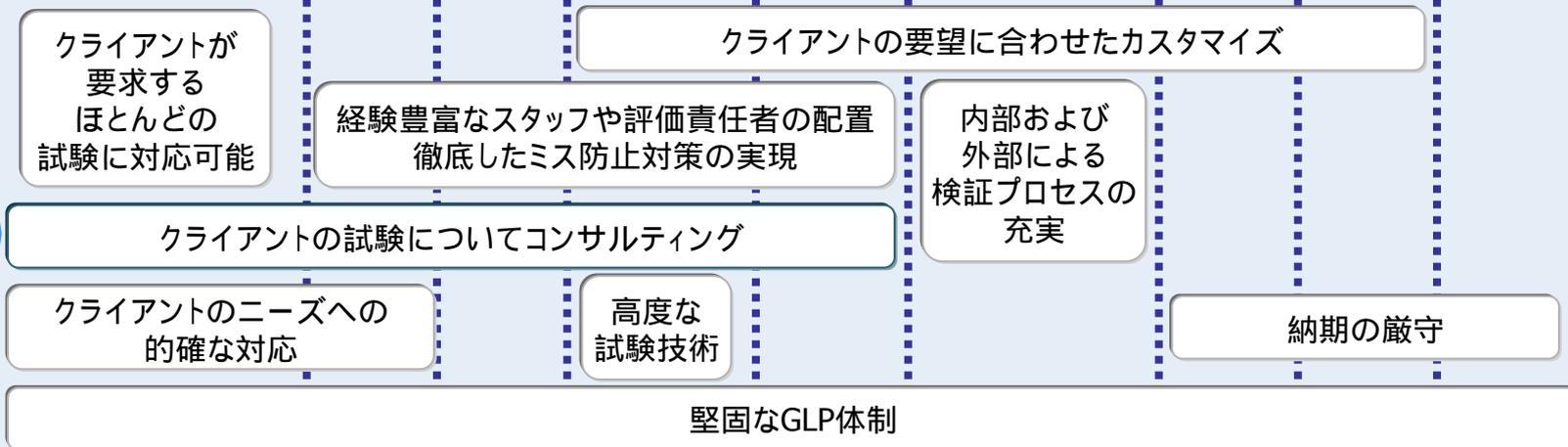
被験物質投与後の生体内での被験物質及びその他の代謝物質の吸収、代謝、排泄について血液、尿、組織を採取して調査する試験。

## ■非臨床試験の流れと当社サービスの特徴

試験の流れ



当社サービスの特徴

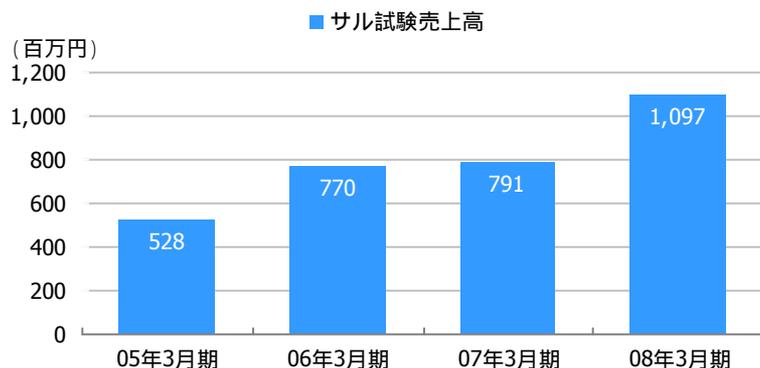


# 医薬品非臨床試験事業

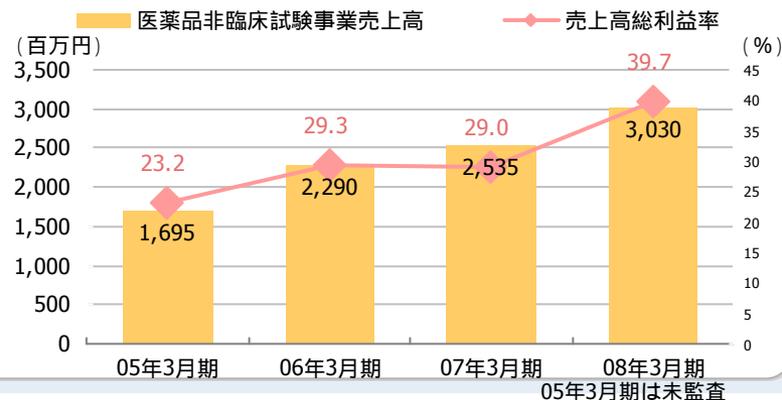
## ■当社グループ主力試験「サル試験」と業績について

- ◆ サルは、遺伝子の塩基配列においてヒトと相同性が高く、近年、その有用性が認められてきている
  - ▶ ヒト・カニクイザルの塩基配列相同性98.8%(厚生省ヒトゲノム・再生医療等研究事業 遺伝子資源室資料)
- ◆ 当社は品質の優れたサルを安定的に調達可能なため、サル試験の受注を順調に増加させている
  - ▶ 3年で売上高5億円から10億円と、約2倍の伸長
- ◆ サルを用いた試験は、高度な技術やノウハウを要するため、利益率も他の動物試験に比べ高い
  - ▶ サル試験の伸びに連れ、売上総利益率も上昇傾向に

### サル試験売上高推移



### 非臨床試験売上高および売上高総利益率推移



サル試験の伸びに連れ、当社非臨床試験事業も大きく成長

# 強み ~ 優位性の高い独自試験及び得意試験の保有 ~

- 当社独自のサル試験系を保有することで市場優位性を確保  
また、得意分野の試験に注力することで、高い成長性を実現

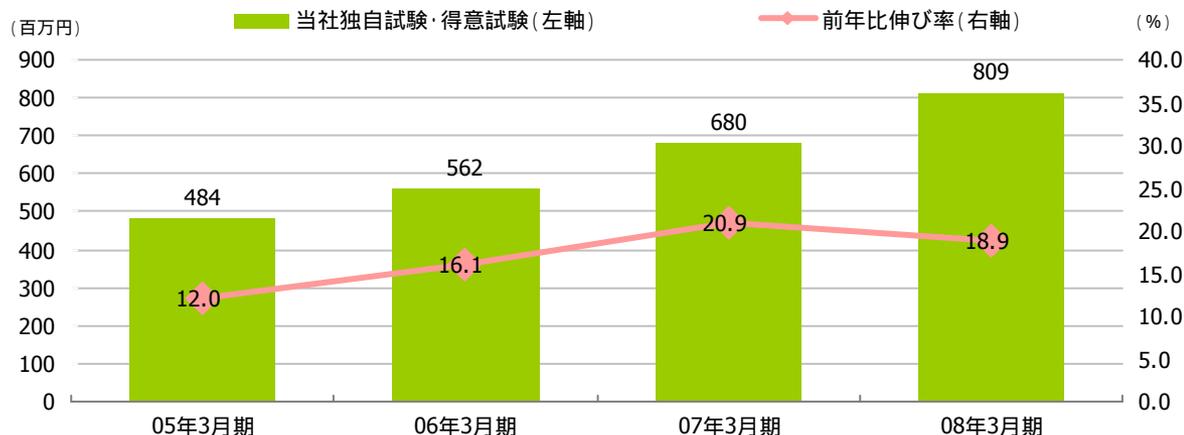
## < 当社独自試験例 >

薬物依存性試験	無麻酔眼圧測定試験	パーキンソンモデル 薬効試験	サル催不整脈モデル	サルトキシコジェノミクス
---------	-----------	-------------------	-----------	--------------

## < 当社得意試験例 >

長時間持続静脈内投与	生殖発生毒性試験
------------	----------

## < 当社独自試験及び得意試験の売上高推移 >

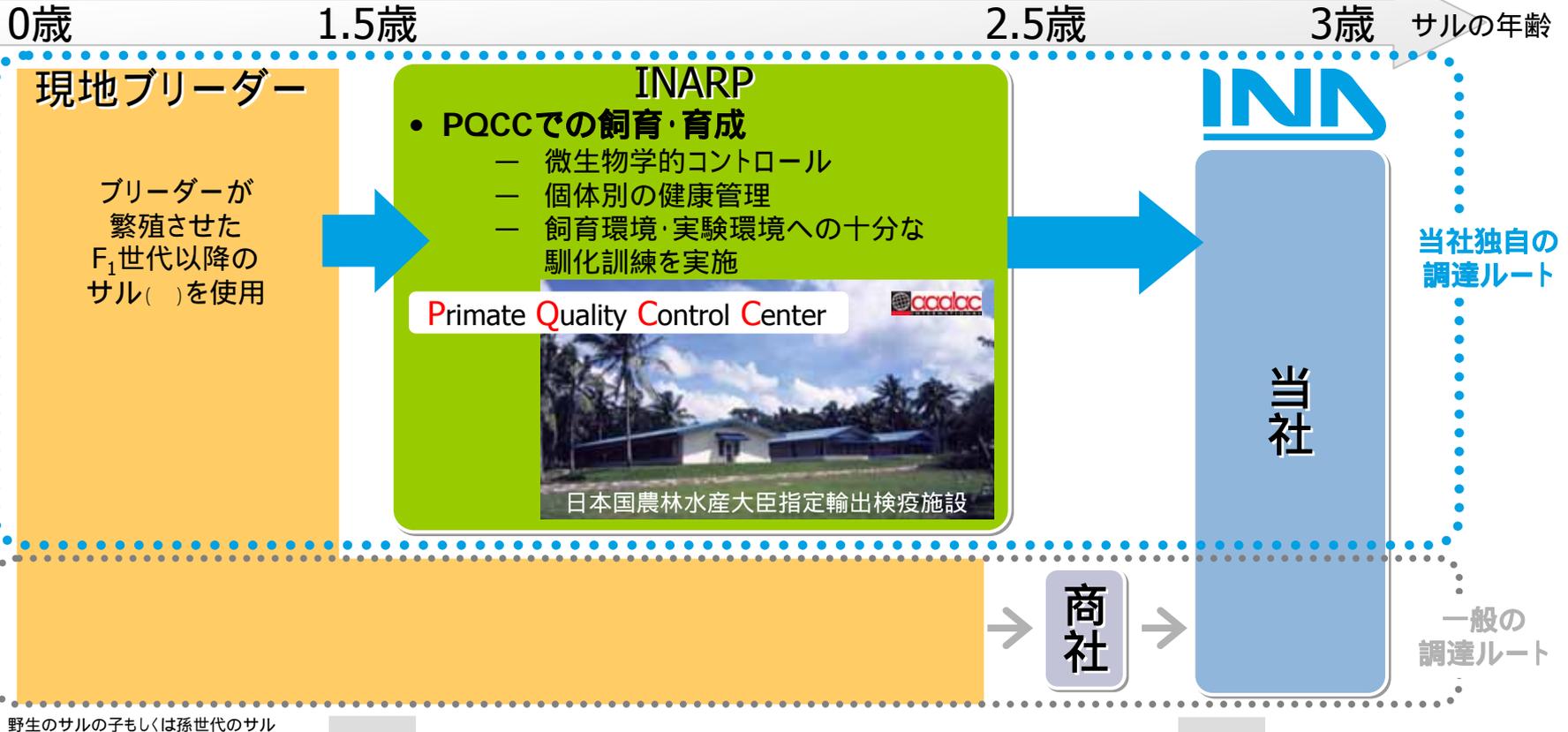


● 独自試験及び得意試験の売上高は2005年～2008年の期間で年率約18.6%の成長

# 強み ~ 実験動物(サル)の調達能力とクオリティ ~

■フィリピンの子会社INARPによる仕入れとPQCCでの育成により、安定した調達能力と高いクオリティを実現

当社の調達ルートと高品質化の仕組み

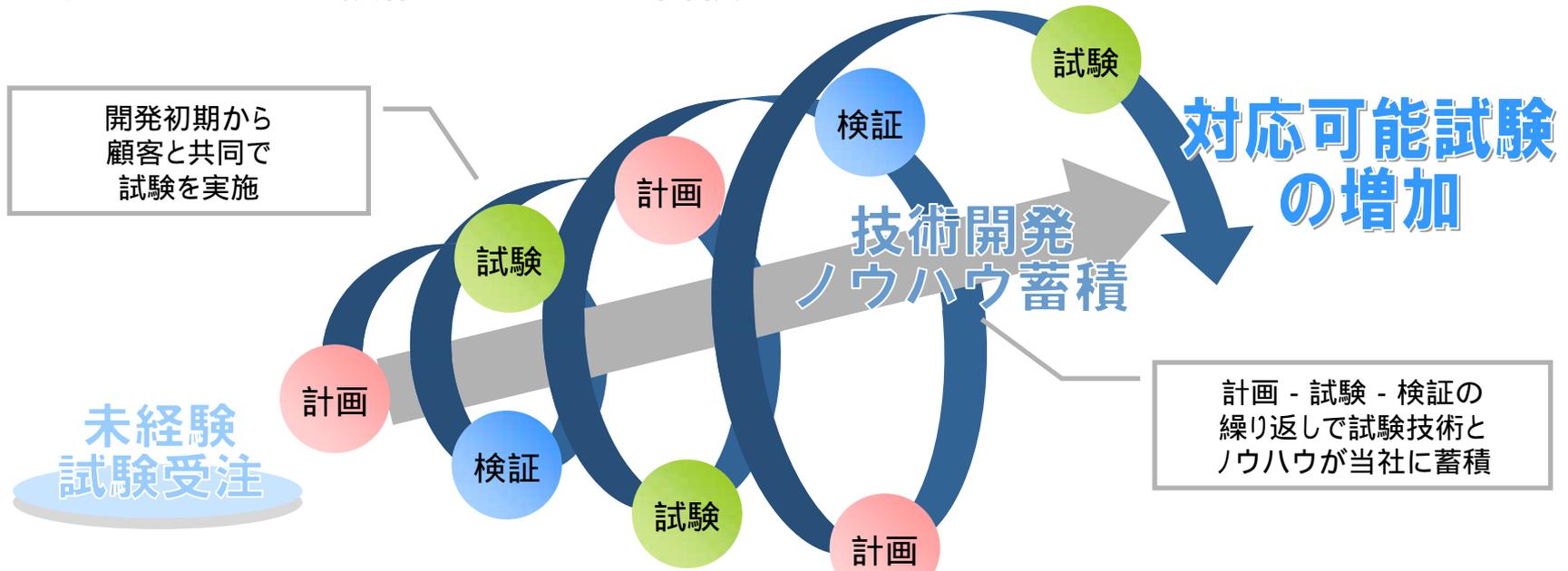


提供した現地ブリーダーからの直接仕入れにより  
安定的な調達が可能

子会社を通じた高品質化のプロセスにより、  
信頼性の高い良質な試験データを顧客に提供

# 強み ~ 高度な技術と試験ノウハウ ~

- 医薬品開発初期の試験方法が未確立な試験を受注することで技術とノウハウを蓄積



動物試験を中心に多種多様の試験対応が可能に

顧客向け受託試験項目  
約120種類  
をメニューとして用意

顧客の要望に応じた  
カスタマイズ試験の提供

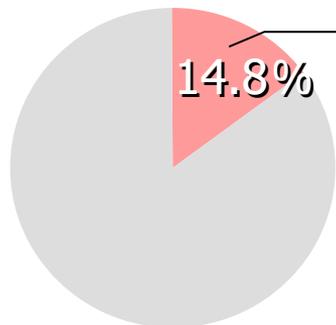
蓄積されたノウハウにより、受け身から攻めの体勢へシフト

医薬品開発における  
アドバイスおよび  
コンサルテーションの実施

研究開発の強化による  
新たな評価系の開発

# 強み ~ 経験豊富な人材と専門家ネットワーク ~

## ■ 経験豊富で専門性の高い人材



**製薬会社出身者が14.8%**

- 有能かつ新薬開発事業に精通
- 顧客からの信頼が厚い
- 高度の人脈ネットワーク構築

(2008年9月時点)



### 【有資格者】 (2008年9月時点)

	(人)
獣医師	14
薬剤師	11
臨床検査技師	27
日本トキシコロジー学会認定	トキシコロジスト 6
日本先天異常学会認定	生殖発生毒性専門家 2
日本毒性病理学会認定	毒性病理学専門家 5
日本獣医病理学専門家協会認定	獣医病理学専門家 1
日本臨床化学会認定	臨床化学者 1
日本顕微鏡学会認定	電子顕微鏡一級技士 1
	電子顕微鏡二級技士 1
	実験動物技術師教官 1
日本実験動物協会認定	実験動物技術師一級 4
	実験動物技術師二級 24
日本QA研究会登録	GLP-QAP 4

## ■ 多彩な分野の顧問による専門家ネットワーク

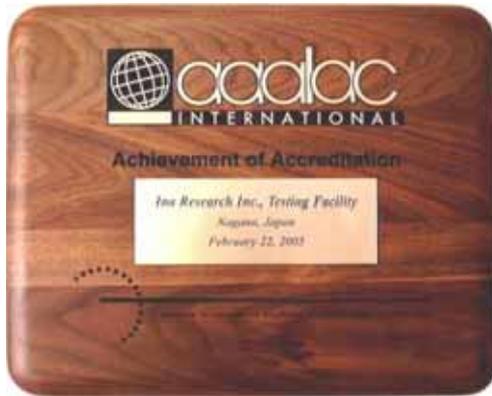
当社の事業の推進にあたり、専門性が大きく向上



会社およびサービスに対する信頼性の向上

# 動物愛護への取組みとグローバル化への対応

## ■国内で初のAAALAC完全認証を獲得し、動物愛護の取組みを強化



**AAALAC International**

Association for Assessment and Accreditation of Laboratory Animal Care

- 実験動物へのアプローチの倫理上の妥当性を判断する国際的評価機関
- 実験動物の適正な管理及び取扱いに対する世界基準を定め、それに合致したものにのみAAALAC完全認証が与えられる

- 2005年2月に日本国内で初の認証獲得
- 国内同業他社でAAALAC完全認証を得ているのは、当社を除いて1社のみ (2008年9月現在)

## ■海外製薬会社からの試験受託体制を整備し、グローバル化への準備を完了

AAALAC取得を委託の基本条件とする海外製薬企業への対応

済

FDA申請に合致した高レベルの英文翻訳・報告書作成

済

海外における営業拠点として、EU・アジアの現地企業との営業協力関係構築

済

# グローバル化への対応

## イナリサーチ環境方針

- 環境に配慮した試験施設の開発・建設
- エネルギー使用の削減及びエコエネルギーの活用によるCO<sub>2</sub>削減
- 実験動物の効率的な利用による、使用動物数の削減

本資料に関するお問い合わせ

**株式会社イナリサーチ**  
社長室 IR担当

TEL: **0265-73-6647**

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

# 本資料に関するご注意

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまっています。既に知られたもしくははいまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、平成20年11月26日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより平成20年11月26日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。